

会 長 橋本正巳
 新潟県山岳協会
 上越市南城町2-3-37
 TEL 025-524-7215

事務局 諏訪恵一
 長岡市高畑町610-10
 TEL 0258-35-4373

編 集 新山協ニュース編集
 委員会代表 浅野亘寛
 TEL 0258-52-3998

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

第60回国民体育大会山岳競技会 新潟県予選会開催される

第60回国民体育大会山岳競技会新潟県予選会が、6月4日～5日に開催された。

6月4日の開始式は岩船郡関川村「道の駅」にある農村文化交流センター「通称」の「む」で行われた。引き続き縦走競技が、関川村滝原地区の畜産団地前～三角点～吹ノ沢川林道のコースで行われた。

幸い天候にも恵まれ、畜産団地前をスタートした選手達の熱戦の様子は、近い将来、山岳競技の中で廃止されるといふ縦走競技ということをお忘れさせる程で、闘いあった選手達



いっせいにスタートする選手達

- 【大会成績】
 ○縦走競技
 (会場・畜産団地前～三角点山～吹ノ沢川林道)
- 成年男子
 - 一位 石川 泰
 - 二位 平嶋 元
 - 三位 土田 洋平
 - 成年女子
 - 一位 石川 泰
 - 二位 平嶋 元
 - 三位 土田 洋平



元気にゴールする選手

- 成年男子
 - 選手 石川 泰
 - 選手 平嶋 元
 - 選手 島岡 徹
- 成年女子
 - 選手 石川 泰
 - 選手 平嶋 元
 - 選手 島岡 徹

- 成年男子
 - 一位 岩橋 由洋
 - 二位 平嶋 元
 - 三位 島岡 徹
- 成年女子
 - 一位 片桐麻由子
 - 二位 田中 瑞希
 - 三位 小林 美久
- 少年男子
 - 一位 大山 嵩進
 - 二位 久保田 聡
- 少年女子
 - 一位 五十嵐裕子

6月5日 クライミング競技はスクエアクライミングセンター(新潟市松島1-4-32)に場所を移し熱戦をくりひろげた。

手達の顔は、一抹の寂しさを吹き飛ばすように、一様にさわやかだった。表彰式は、再び農村文化交流センター「のむ」で行われた。



▲ボードに挑む選手

- 成年女子
 - 選手 須藤吉仕子
 - 選手 片桐麻由子
 - 選手 田中 瑞希
- 尚、北信越大会は7/30～31日に富山県で開催される。
- ・縦走(T)会場は、イオックス・アローザスキー場～夕霧峠

全距離約5,000m
 ・クライミング(C)会場は、桜ヶ池クライミングセンター
 常設クライミングウォール
 以上の会場で開催されます。
 多くの応援をお願いいたします。

会報編集委員会 浅野亘寛

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス
国土交通大臣登録旅行業第553号・IATA代理店 (社) 日本旅行業協会会員
 本社 新潟県長岡市豊町1丁目3番5号

☎ (0258)33-7123
 ☎ (025)246-2266

- ☐長岡営業所
- ☐新潟営業所

キナバル紀行

さそり座に導かれてキナバル山に登る

新潟登山会 加藤 博

長岡ハイキングクラブ、新潟登山会の有志9名で、マレーシアの世界遺産にも登録されている、ボルネオ島のキナバル山(標高4,095m)に登頂してきた。女性3名を含む59歳から70歳までの平均年齢64・2歳のグループである。

3月5日(土)
降雪を気づいて、貸切バスで早朝4時に新潟駅前を出発、長岡で全員が乗車して一路、成田空港に向かう。マレーシア航空による7時間半の飛行でクアラ Lumpur へ。更に乗り継いで2時間半、コタキナバルに着陸したのは、すでに真夜中だった。

3月6日(日)
真夏の暑さの中、足慣らしにジャングル(熱帯雨林)をハイキング。日本人が開発したという温泉も見学した。舗装された道を2台の車ではしり、標高2,000m、マシラウのロッジに着いた。2段ベッド6台の大部屋に泊まる。シャワーは熱いが部屋に暖房はなし。それにしても手袋をして寝たのは私一人だけだったろう。機械的に正確な歯ぎしりする御仁が居られたのは、ご愛嬌と言わなければならない。

3月7日(月)

次の山小屋まで7時間かけて歩く予定。今までの観光ガイド2人の他に、山岳ガイド2人、そしてポーターが4人付いた。いずれも眉目秀でた頼もしいマレーシアの青年達、運動靴で共に歩いてくれた。荷物は三分割する。下山後のホテルへ直行する荷物。ポーターに頼む今日の昼食、飲料水、おやつ、など。防寒衣と雨具などは手離さずに背負う。

マシラウのゲート入山の手続き、トラング大の入山カードには、日付と氏名が印字されていた。それを首から下げて8時半、総勢17人は出発した。山麓部は高木が繁る密林で、姿はみえぬが鳥の美しい声が聞こえる。高度が上がるにつれて、色鮮やかな花々が迎えてくれる。日本のものに似た植物もあるが、シダ類は巨大だった。ガイドが道端のウツボカズラや蘭の花を教えしてくれる。休憩時に日本のおやつを全員に配る。ポーター達とも心が通じあう。道は良く踏まれていて広く、500m毎に距離表示があり、1時間程歩く雨水を溜めたタンクを備えた水洗式トイレと休憩用の東屋があった。しかし

地元マレーシアを始め、中国、台湾、韓国そして欧米諸国の人達(なぜか日本人は少なかった)が行き交う賑やかさに比べると、トイレの数は不足だ。300m登ったと思うと、200m下るが、まだまだ元気。昼食後、乾季のはずだが雨が降り出す。聞くところ、月振りだと言ふ。スコールではなく、シットリとした日本型の雨なので、折り畳み傘が役立つ。

道は険しくなり、はしごや階段も出てくる。それにしても階段は短足の日本人向きでなく段差が大きい。使っている木はチョコレート色で硬そうだ。ヒョットとして黒檀かもしれない。入山手続きをしたゲートから、35・5kmで合流点。山小屋の建築工事中だった。ガイドに「ボラン、ポラン」(マレーシア語で「ゆっくり、ゆっくり」と呼びかけられて歩くが、いつの間にか隊列が延びてしまう。幸い、雨は長続きしなかった。樹林帯を抜けて、標高3,352mのラバウスラの3階建てのレストハウスに、私は5時半に着く。予定より2時間遅れてしまったが、最後尾ではなかった。ゲートから37km強歩いたことになる。コーヒ、紅茶、焼きそばなど自由に食事できるが、土産物など一切売っていない。ペランダからみる高原の落日は美しかった。しかし、せっかく国際色豊かな岳人たちが一堂に会したのだから、交歓会のような催しが出来ないものかと、フット思った。



キナバル山頂にて

国際親善が登山から生まれ、素晴らしいと思う。後続のメンバーを待って、少し離れたロッジへ行く。冷水のシャワーを浴びる人は居ないが、トイレが水びたしなのは、閉口した。2段ベッドの4人部屋では持参した衣類を全部重ね着したので、薄い毛布一枚でも高原の夜を快適に過ごす事が出来た。

午前2時起床。脈拍数と血中酸素濃度をリダーが測定してくれる。数値は良いので、自信を持って2時半に出発する。外は低温で低酸素。富士登山の経験を生かして、一歩々々ゆっくりと歩く。階段が続いて低木の樹林帯を抜けると、花崗岩の山塊を一筋のロープが山頂まで延々と続いて、それにつれてヘッドランプの列も山頂へと続いている。ゆら

めくランプの先、動かぬ灯は何だろ。それはもう天上の星々。見上げれば小さな星々鮮やかなので、空全体が星々々におおわれている。南十字星はどれだろ。天頂近くに、さそり座を見つめる。新発田からだとな南の地平線近く、低く見えるのだが・・・。確かにさそり座だ。さそりの心臓にあたるアンタレスの赤い光が、少し淡いように見えた。頭痛、吐き気、高山病の症状は心配ないようだ。夜もあけて頂上のロウズピークに6時半に着く。遂に念願の4,095mに達した。そこには神仏も祀られておらず、狭いので感激に浸っているゆとりも無い。記念写真を撮って早々に場所をゆずり下山開始。振り返ると、岩峰が連なっている。今朝は無風状態だが花崗岩の岩肌を滑らないよう気をつけて8時45分にロッジに到着する。朝食はレストハウスで済まして出発。途中小雨に遭うが程なく止み、分岐点からは別ルートで、山頂から8.5km歩いてキナバル山ゲートに着く。

登頂証明書ももらい、コタキナバル市のタンジュニアールホテルに到着。翌日は美しい色とりどりの珊瑚、熱帯魚の群れる南海の島巡りと豊富な果物を楽しみ、夜6時半、コタキナバルを離陸。クアラロンビル乗換を経て3月10日朝成田空港に到着する。登頂の成功と楽しい思い出を沢山得ることが出来た。

環境労働大臣賞に輝く

下越山岳会

高橋 正英さん

☆高橋正英さん(新潟県市荒町甲426-2)は長年環境省自然公園指導員として自然公園保護や登山者の安全指導に貢献され、その功績が認められた。平成17年8月3~4日長崎県佐世保市で開催される、第47回全国自然公園大会の席上、自然公園関係功労者として、環境労働大臣賞の表彰を受賞されると、県環境企画課より連絡が入った。高橋

さんの豊かな山暦、人柄と指導力には定評がある。

賛助会員の募集について

日頃県山岳協会の事業について、参画して頂き格別なるご支援を賜りありがとうございます。当協会は、登山を通じて、県民体育の向上と加盟団体相互の親睦融和をはかることを目的として、委員会を設け下記の事業を行っております。本事業を実施するに当たっては、加盟団体の分担金で賄っております。しかしな

がら、十分な財源を持って実施されていると言う状況ではなく、場合によっては担当各位のボランティアで活動していると言うのが実情であります。このためとは申し上げられませんが、本会の目的・事業に賛同する方々を個人・団体を問わず、賛助会員とする事が出来ることとなっております。平成17年度に入り、当協会の活動発展を容易とするため、賛助会員を募集する事と致しました。各位におかれましては、ご理解と趣旨ご賛同の上、多数のご入会をお願い申し上げます。

記

新潟県山岳協会事業

1 国民体育大会山岳部門に関する事項。

2 県体育協会登山部門に関する事項。

3 日本山岳協会に関する事項。

4 登山施設の改善促進及び技術指導に関する事項。

5 遭難対策に関する事項。

6 加盟団体の主管する事業に対する相互協力に関する事項。

7 その他本会の目的達成に必要な事項。

賛助会費
年額 10,000円



日本アルプス最高峰、白根層群の北岳

山と岩石

さわがに山岳会 小野 健

④3 百名山の地質展望⑥

深田百名山地質を紹介して6回になったが、6月下旬、福井県大聖寺町の深田久弥「山の文化館」で講演する機会に恵まれた。古い洋風の館に、大勢の深田ファンが集って山を語っていた。帰りに生家に立ち寄って、甥(旧社友)の深田氏と当時の話を聞く機会を得た。山を媒体とした出会いが、得難い人間関係に発展していくから面白い。

さて、中アや南アには、高峰名山が目白押しに並ぶ。木曾山脈には、木曾駒ヶ岳と空木岳があり、領家帯花崗岩の奇岩が連続してカールや高山植物も豊富である。

赤石山脈には、四万十帯に属する白亜紀白根層群(推積岩系)の北岳・間ノ岳・仙丈岳・塩見岳・東岳・赤石岳・聖岳・光岳と領家花崗岩系の甲斐駒ヶ岳と鳳凰山がある。南アの石灰岩を含む秩父古生層といわれた地層は、今や中生代の四万十層に消化されてしまった。南アは、山容が穏やかで森林限界も高いが、入山が不便なため静かな山域を保っている。

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー



パーマーク
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>

加盟団体動向

加盟団体の連絡先が変更になりましたので、お知らせいたします。

○小須戸山岳会

〒956-0112

新潟市新保1510

渡辺 欣一様方

新潟県山岳協会

会長 橋本 正巳

理事長 片桐 一夫

総務委員長 七沢恭四郎

〒940-0154

上越市稲田4-12-31

TEL/FAX 025-523-7661

文責 七沢恭四郎

お知らせ

平成17年度中高年安全登山指導者講習会(中部地区)の開催について

中高年の体力等に応じた登山の知識、技能について習得するとともに研究協議を行い、中高年登山指導者の養成と安全登山の普及を図る。

主催 文部科学省、(社)日本山岳協会、奈良県教育委員会
主管 奈良県山岳連盟

期日、開催地及び参加都道府県

(1) 期日 平成17年10月7日～10月9日
開催地 〒633-1202 奈良県宇陀郡曾爾村

(2) 奈良県宇陀郡曾爾村
太良路1170
国立曾爾少年自然の家及び周辺山域

(3) 開閉講式、宿泊場所
国立曾爾少年自然の家
TEL 0745-96-2121
FAX 0745-96-2126

(4) 参加府県 新潟、富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山。

講義内容 中高年の健康・体力と登山。登山の基礎知識(山の天気等)。登山の準備・

歩行技術・生活技術・応急時対策。

参加申込み

提出期限 平成17年8月19日。
参加希望者は必要書類も有る為、所属山岳会、団体を通じて協会に問い合わせ下さい。

行事案内

平成17年度安全登山講習会の開催

各団体から安全登山への意識、技術を高めてもらうために、遭難対策委員会と中高年登山委員会が共催して行います。多くの山岳団体の参加をお願い致します。

◎ 平成17年8月7日(日) 受付 8時30分より。

◎ 講習 9時～16時。

◎ 集合場所 角田浜駐車場
灯台コースの登山口に近い方(8時30分より案内)

内容 (1) 座学 山岳遭難の実態と対策

(2) 簡単な用具を使つての安全対策

簡単なハーネスを作る。補助ロープの結び方、カラビナとスリングの使用法、補助ロープを使った危険箇所の確保、

通過。特別な装備を用いない、通常の山歩き程度の装備での安全対策を学びます。

持ち物 ☆7mm 10mの補助ロープ一本。☆スリング用ロープとテープ各一本。(ロープ6mm 1.5m)(テープ3cm巾3m) ☆安全環付カラビナ1枚(大きめの物) ☆カラビナ2枚 ☆軍手雨具 ☆昼食、飲料水 ☆筆記具

参加費 500円 当日
申し込みは8月1日まで別紙申し込み用紙にて郵送、FAXにて榎井利幸迄
FAX・TEL 0256-92-3168
新潟県山岳協会
会長 橋本 正巳
遭難対策委員長 榎井 利幸
中高年登山委員長 山田 弘二

第8回 新潟カップ開催について(要綱)

県内のクライミングの普及とレベルアップを目的として、第8回新潟カップが開催される。ロープ等豪華商品も用意してあるとの事。

期日 9月11日(日)
会場 国際アウトドア専門学
校クライミングウオール
〒949-1221 9
妙高市原通70
TEL 0255-82-4450

種別 1 ジュニア小学生の部 男子、女子
2 ジュニア中学生の部 男子、女子
3 ジュニア高校生の部 男子、女子
4 シニア 男子、女子
5 オープン男子、女子

参加資格
・リードクライミングの出来る人
・新潟県内に在住・通勤・通学の方
申込方法・問い合わせ
・申込書に記入、郵送もしくはFAXで申し込み下さい。
〒950-0081 4

競技方法 オンサイト・リールド方式(ジュニア小学生はトッププロロープ方式)
参加費 ジュニア 1,000円
シニア・オープン 2,000円
(締切日を過ぎての受付の場合、ジュニア、200円増、シニア・オープン、500円増)

新潟市逢谷内2-5-16 内山 豊
携帯 090-1049-7101
TEL 025-271-3637
FAX 025-271-3651
インターネットによる申し込み、問い合わせ。内山 豊 youcan@irs.ocn.ne.jp
インターネットによる申し込みは氏名、住所、最高オンサイトグレード、種別、性別、身長を記載してください。
申込締切 平成17年8月28日
新潟県山岳協会
会長 橋本正巳
クライミング委員長 内山 豊

登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)